

最初の宣教師

シリーズ～預言者の声～

2022/6/12

預言書について

- 大預言書

- イザヤ書
- エレミヤ書(哀歌)
- エゼキエル書
- ダニエル書

- 小預言書

- ホセア書
- ヨエル書
- アモス書
- オバデヤ書
- ヨナ書
- ミカ書

- ナホム書
- ハバクク書
- ゼファニヤ書
- ハガイ書
- ゼカリヤ書
- マラキ書

イスラエルの時代と預言者

時代		北王国	南王国
統一王朝	神殿完成	サムエル・ナタン	
南北朝	王朝分裂	エリヤ・エリシャ ヨナ	
	北王国滅亡	アモス・ホセア	イザヤ・ミカ
南朝			ナホム ゼフェニア
捕囚	バビロン捕囚 エルサレム陥落		ハバクク エレミヤ・エゼキエル ダニエル
再建	帰還		ハガイ・ゼカリヤ マラキ
		オバデヤ・ヨエルは不明	

ヨナ書

- ニネベに行って預言するよう命じられたヨナ
 - 「主の言葉がアミタイの子ヨナに臨んだ。『さあ、大いなる都ニネベに行ってこれに呼びかけよ。彼らの悪はわたしの前に届いている。』」1:1-2
- 「ニネベ」について
 - メソポタミヤ地域を中心に領土を拡大していたアッシリア帝国の首都
 - 「ニネベは非常に大きな都で、一回りするのに三日かかった。」3:3
 - 「災いだ、流血の町は。町のすべては偽りに覆われ、略奪に満ち／人を餌食にすることをやめない。」(ナホム3:1／ニネベの滅亡を預言)

ヨナ書

- ニネベに行って預言するよう命じられたヨナ
 - 「主の言葉がアミタイの子ヨナに臨んだ。『さあ、大いなる都ニネベに行ってこれに呼びかけよ。彼らの悪はわたしの前に届いている。』」1:1-2
 - 「ニネベ」について
 - メソポタミヤ地域を中心に領土を拡大していたアッシリア帝国の首都
 - イスラエルにとっては最大の脅威であった
740年に始めてイスラエルに攻め込んだ
 - 722年に北王国はアッシリアによって滅ぼされた！
- われ、略奪に満ち／人を餌食にすることをやめない。」(ナホム3:1／ニネベの滅亡を預言)

海に投げ込まれたヨナ

- 主の命令に背き、逃げようとしたヨナ
 - 「しかしヨナは主から逃れようとして出発し、タルシシュに向かった。」 1:3
- 嵐に遭い沈みそうになった船
 - 「主は大風を海に向かって放たれたので、海は大荒れとなり、船は今にも砕けんばかりとなった。」 1:4
- 自分が原因だと告げるヨナ
 - 嵐の原因を探ろうとくじをひくとヨナに当たった
 - 「わたしの手足を捕らえて海にほうり込むがよい。そうすれば、海は穏やかになる。」 1:12

海に投げ込まれたヨナ

- 主の命令に背き、逃げようとしたヨナ

- 「しかしヨナは主から逃れようとして出発し、タルシシュに向かった。」1:3

自分が死ねば
ニネベが滅び
と思ったから

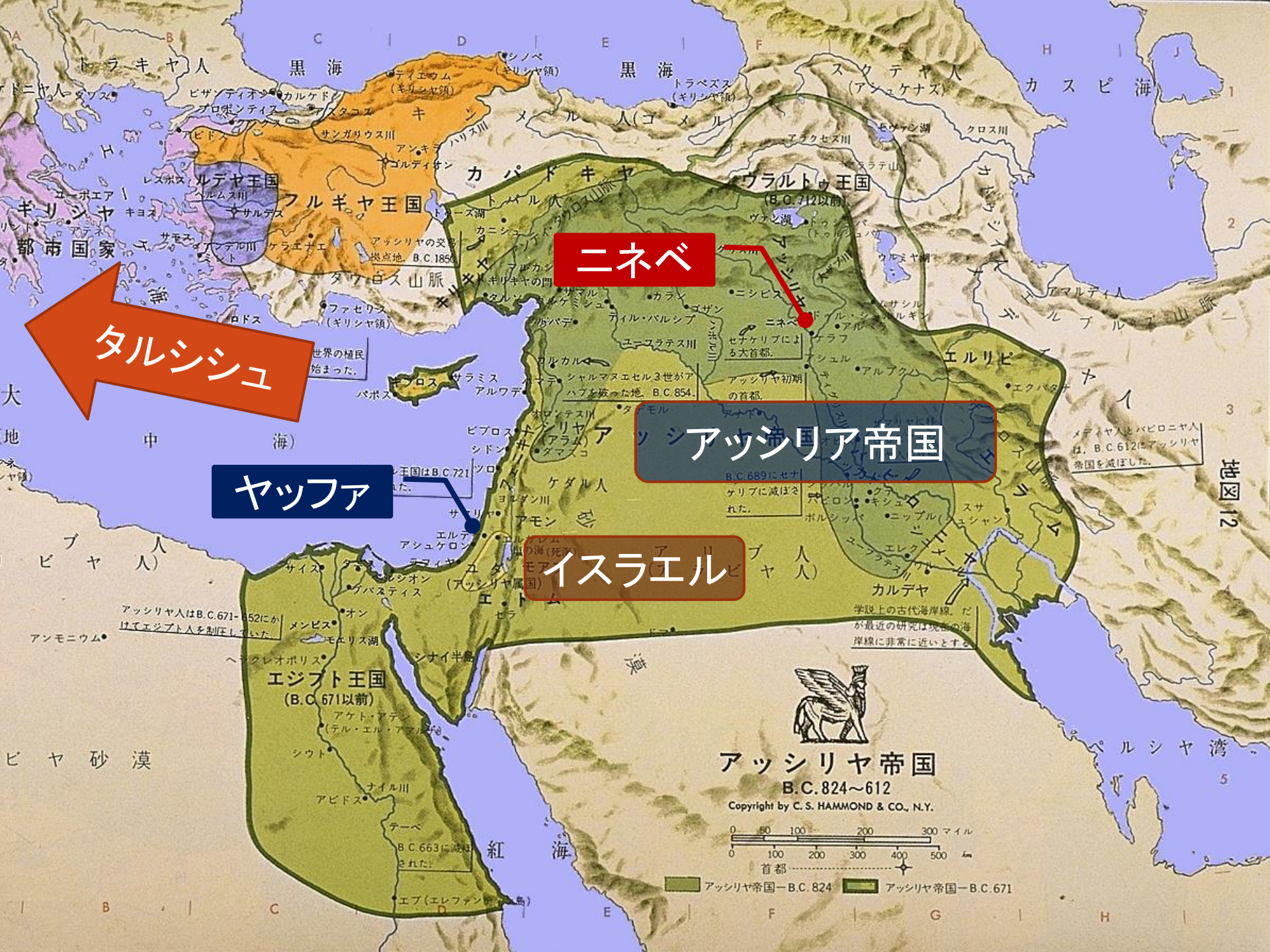
そうになった船
海に向かって放た
り、船は今にも破

敵国を助けたく
なかったから

なつた。1:4

- 自分が原因だと告げるヨナ

- 嵐の原因を探ろうとくじをひくとヨナに当たった
- 「わたしの手足を捕らえて海にほうり込むがよい。そうすれば、海は穏やかになる。」1:12



ニネベ

タルシシュ

ヤッファ

イスラエル

アッシリア帝国

アッシリヤ帝国

B.C. 824~612

Copyright by C. S. HAMMOND & CO., N.Y.

0 50 100 200 300 マイル

0 100 200 300 400 500 Km

首都

アッシリヤ帝国—B.C. 824 アッシリヤ帝国—B.C. 671

地図12

魚に飲み込まれたヨナ

- 海に投げ込まれたヨナ

- 「彼らがヨナの手足を捕らえて海へほうり込むと、荒れ狂っていた海は静まった。」15

- 魚に飲み込まれたヨナ

- 「主は巨大な魚に命じて、ヨナを呑み込ませられた。ヨナは三日三晩魚の腹の中にいた。」2:1

- 魚の腹の中で悔い改めたヨナ

- 「ヨナは魚の腹の中から自分の神、主に祈りをささげて、言った。苦難の中で、わたしが叫ぶと／主は答えてくださった。…いけにえをささげて、誓ったことを果たそう。」2:2, 10

悔い改めたニネベの人々

- 再び主はヨナに告げられた
 - 「さあ、大いなる都ニネベに行って、わたしがお前に語る言葉を告げよ。」3:2
- ニネベに行き、預言したヨナ
 - 「ヨナはまず都に入り、一日分の距離を歩きながら叫び、そして言った。『あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。』」3:4
- 悔い改めたニネベの人々
 - 「人も家畜も粗布をまとい、ひたすら神に祈願せよ。おのおの悪の道を離れ、その手から不法を捨てよ。」3:8

主に怒ったヨナ

- 災いを思い直された主

- ニネベの人々の姿を見て主は「思い直され、宣告した災いをくだすのをやめられた。」3:10

- 不満に思い、主に訴えたヨナ

- 「わたしには、こうなることが分かっていました。あなたは、恵みと憐れみの神であり、忍耐深く、慈しみに富み、災いをくだそうとしても思い直される方です。主よどうか今、わたしの命を取ってください。生きているよりも死ぬ方がましです。」4:3

- 小屋を建てて災いが下るのを待ったヨナ

ヨナに対する教育

- 「とうごま」を生えさせて影を作られた主
 - 「ヨナの不満は消え、このとうごまの木を大いに喜んだ。」
- 「とうごま」が枯れ、再び文句を言うヨナ
 - 主は虫に命じて木を荒らさせ、枯らせた
 - 更に「焼けつくような東風」を突きつけられた
 - 「ヨナはぐったりとなり、死ぬことを願って言った。『生きているよりも、死ぬ方がましです。』」4:8

主の言葉

すると、主はこう言われた。「お前は、自分で労することも育てることもなく、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのとうごまの木さえ惜しんでいる。それならば、**どうしてわたしが、この大いなる都二ネベを惜しまずにいられるだろうか。**そこには、十二万人以上の右も左もわきまえぬ人間と、無数の家畜がいるのだから。」4:10-11

ヨナ書の特徴

- 海外(異邦人)への預言である
 - 異邦人についての預言は多いが、その場に向いて直接預言しているのは本書だけ！
- 預言者個人の体験が用いられている
 - 体験を通して主の思いを知らされる預言者は何人かいる(ホセア・エゼキエルなど)が、これほどユニークなのは本書だけ！
- 人類に対する主の憐れみが啓示されている
 - イスラエルの民に対する憐れみはしばしば語られるが、極悪とも言える異邦人への憐れみが語られるのは本書だけ！

ヨナ書の現代的意義

- 主は私たちの体験を通して様々なことを教え、主の御業に用いられる
 - 「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。」ヤコブ1:2
- 主の憐れみはすべての人々に等しく及ぶ
 - 「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。」テモテ一2:4
- 福音は自らの足で届ける
 - 行きたくない人のところへ行くように命じられる
 - あなたの「復活体験」こそが福音の中心である

「まして、わたしは、この大きな町ニネベを
憎しまないでいられようか。」

ヨナ 4:11

